

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C   | 製品 D  |
|-----|--|--|--|---|
| 62  |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵バッテリーが経時劣化すると、バッテリーランプの示す動作時間が短くなる。内蔵バッテリーの劣化状態チェックと、バッテリーランプの表示精度を維持するため、1カ月に1回は充放電を行うこと。また、約2年を目安に定期的に交換を行うこと。</li> </ul>  |  |   |
| 63  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の周辺での携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等高周波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用すること。またこれらの機器とは別系統の電源を使用すること。[ポンプに誤動作が生じる可能性がある。]</li> </ul>                                  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の周辺で電磁波を発生する機器（携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等）を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用すること。また、これらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。[本品に誤作動が生じた場合、患者に重篤な状態を与える可能性がある。]</li> </ul>   | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本機の周辺で携帯電話、無線電話、電気メス、除細動器等高周波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用すること。またこれらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。[ポンプに誤作動が生じるおそれがある。]</li> </ul>                          | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本製品の周辺で携帯電話、無線機器、電気メス、除細動器等高周波を発生する機器を使用する場合は、できるだけ離れた位置で使用すること。またこれらの機器とは別系統の電源を使用し、確実に接地を行って使用すること。[ポンプに誤作動が生じた場合、患者に重篤な状態を与える可能性があります。]</li> </ul>               |
| 64  |  | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部通信機能を使用中は電気メス、携帯電話、無線機器、除細動器等の影響を受けやすくなるため、十分注意すること。また、本品が正常に動作していることを定期的に確認すること。</li> </ul>  | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部通信機能を使用中は電気メス、携帯電話、無線機能、除細動器等の影響を受けやすくなることが考えられる為、充分注意すること。また、本機が正常に動作していることを定期的に確認すること。</li> </ul>   |   |
| 65  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線機器・MRIの管理区域内および高圧酸素療法室内では、使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用も行わないこと。[本品はこれらの環境での使用を想定した設計をされていない。これらの環境で使用すると、本品の誤動作や破損、爆発を誘引する可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線機器、MRIの管理区域内及び高圧酸素療法室内へは持ち込まない、又は使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用もしないこと。当該環境に本品を誤って持ち込んだ場合は、直ちに使用を中止し、以降、使用しないこと。[本品はこれらの環境での使用を想定していない。これらの環境に持ち込むことにより、本品の誤作動や破損及び経時的な劣化、又は爆発の誘因となる可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線機器・MRIの管理区域内及び高圧酸素療法室内では、使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用も行わないこと。[本機はこれらの環境での使用を想定した設計をしていない。これらの環境で使用すると、本機の誤動作や破損、爆発の誘因を引き起こすおそれがある。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線機器・MRIの管理区域内及び高圧酸素療法室内では、使用しないこと。また、高圧酸素療法室内へ輸液ラインだけを入れての使用も行わないこと。[本製品はこれらの環境での使用を想定した設計をされていません。これらの環境で使用することにより、装置の誤動作や破損、爆発の誘因を引き起こす可能性があります。]</li> </ul> |

| No. | 製品 A  | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D   |
|-----|---|--|---|--|
| 66  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気メスまたは携帯電話と本品を併用すると、誤動作する可能性があるため、次のことを確認すること。電気メスのコード（メスホルダ、メスコード、および対極板コード）と本品の距離を 25cm 以上離すこと。携帯電話は本品から 1m 以上離すこと。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気メスの周辺で使用する場合は：医用電気メスは高いエネルギーの高周波電流により、生体の切開や凝固を行う手術用機器である。電気メスの周辺で本品を併用する場合には、下記の事項について使用前に確認すること。(1) 電気メスは、その種類により高周波雑音の発生度合いが異なり、特に古いもの（真空管ギャップ式）から発生する雑音は大きくなるので併用は避ける。(2) 電気メスのコード（メスホルダ、メスコード及び対極板コード）及び電気メス本体と、本品の距離を 25cm 以上離す。(3) 電気メスと本品の電源は、別系統の電源からとり、確実に接地を行う。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気メスの周辺で使用する場合は：医療用電気メスは高いエネルギーの高周波電流により、生体の切開や凝固を行う手術用機器である。電気メスの周辺で本機を使用すると、高周波雑音により誤作動するおそれがある。電気メスを併用する場合は、下記の事項について使用前に確認すること。(1) 電気メスは、その種類により高周波雑音の発生度合いが異なり、特に古いもの（真空管ギャップ式）から発生する雑音は大きくなるので併用はさけること。(2) 電気メスのコード（メスホルダ、メスコード及び対極板コード）および電気メス本体と、本機の距離を 25cm 以上離すこと。(3) 電気メスと本機の電源は、別系統のコンセントからとり、確実に接地を行うこと。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気メスの周辺又は併用で本製品を使用すると、電気メスの高周波雑音により誤動作する可能性があります。電気メスの周辺で使用する場合には、下記の事項について使用前に確認すること。(1) 電気メスは、その種類により高周波雑音の発生度合いが異なり、特に古いもの（真空管ギャップ式）から発生する雑音は大きくなりますので併用はさけること。(2) 電気メスと本製品の電源は、別系統のコンセントからとり、確実に接地を行うこと。</li> </ul> |
| 67  |   | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品を他の医療機器、医療用モニタと接続する際には、システムとしての安全を確保するため、IEC60601-1-1：2000 に適合していることを確認して使用すること。</li> </ul>   |   |  |
| 68  |   | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>品を医療用モニタ等と接続する際には、モニタ等のメーカーと仕様の確認を行うなど、安全に注意すること。また、接続ケーブルは EMI 対策品を使用すること。</li> </ul>  |   |  |
| 69  |   | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナースコールと接続する際には、ナースコール機能を維持するため、電気工事取扱店に相談すること。</li> </ul>   |   |  |
| 70  |   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部通信／ナースコールコネクタを使わない場合は、カバーを取り付けること。(コード番号：TE-161SC、TE-161SAC のみ)</li> </ul>   |   |  |
| 71  |   | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナースコールの代わりにブザー又はランプ等を接続する場合は、DC12V、1A以下の容量で使用すること。</li> </ul>   |   |  |

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|--|--|---|---|
| 72  |  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品は気密構造ではないので、活性ガス（消毒用ガスも含む）環境やネブライザー等の噴霧を行っている環境や多湿環境等での使用、保管はしないこと。[装置内部の電子部品に影響を与え、損傷や経時劣化により、本品が故障する原因となる。]</li> </ul>              |   | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活性ガス（消毒用ガスを含む）環境や多湿環境等では使用・放置しないこと。[本製品は気密構造ではないので、装置内部の電子回路に影響を与え劣化や損傷により故障する可能性があります。]</li> </ul>  |
| 73  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引火性のある環境で使用しないこと。[火災または爆発を誘引する可能性がある。]</li> </ul>   | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引火性のある環境で使用、保管はしないこと。[引火又は爆発の誘因となる可能性がある。]</li> </ul>   | <p><b>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引火性のある環境で使用しないこと。[引火又は爆発を誘因するおそれがある。]</li> </ul>               | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引火性のある環境で使用しないこと。[引火又は爆発を誘因するおそれがあります。]</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>可燃性麻酔剤などが存在する引火性のある環境では使用しないこと。</li> </ul> |
| 74  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所、エアコン、暖房器具、換気口、加湿器などからの風が直接当たる場所、液体がかかる場所、傾斜した場所で使用しないこと。液体がかかった場合は、柔らかい布等ですぐに拭き取ること。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所や液体がかかる場所で使用しないこと。本品に液体（薬液や血液等）がかかった場合は、乾いた柔らかい布等で水気をよく拭き取ること。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となる。]</li> </ul> |   |   |
| 75  |  |  |   | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管に関する注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件：周囲温度 10～40℃</li> <li>相対湿度 30～75%RH</li> </ul>  |
| 76  |  |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直射日光の当たる場所および異常な温度、湿度となる場所では使用しないこと。</li> </ul> |   |
| 77  | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管条件〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周囲温度：-10～40℃、相対湿度：20～95%（ただし、結露なきこと）</li> </ul>  | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈貯蔵・保管方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保管条件：周囲温度-20～45℃ 相対湿度 10～95%RH（ただし、結露なきこと）</li> </ul>   |   | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管に関する注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直射日光や紫外線照射下に長時間放置しないこと。保管条件：周囲温度 0～40℃ 相対湿度 30～75%RH（但し、結露なきこと）</li> </ul>  |

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|--|--|---|---|
| 78  | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水のかからない場所に保管すること。</li> <li>■ 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分等を含んだ空気等により悪影響の生じる可能性のない場所に保管すること。</li> <li>■ 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。</li> <li>■ 直射日光の当たらない場所およびエアコン、暖房器具、換気口、加湿器からの風が直接当たらない場所に保管すること。</li> <li>■ 傾斜、振動、衝撃等のない安定な状態で保管すること。</li> <li>■ バッテリーは過放電を防ぐため、満充電にして保管すること。長期間使用しないときは、バッテリープラグをはずして保管し、6ヶ月に1度は、満充電にすること。</li> </ul> | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈貯蔵・保管方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 水ぬれに注意し、日光及び高温多湿を避けて保管すること。</li> <li>■ ・振動、塵埃、噴霧下、腐食性ガス等の多い場所に保管しないこと。</li> <li>■ 日光や紫外線照射下に長時間放置しないこと。[外装が変色、変形、変質することがある。]</li> <li>■ 気圧、温度、湿度、風通し、塩分、イオウ分を含んだ空気等により悪影響の生じる可能性のある場所に保管しないこと。</li> <li>■ 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。</li> </ul> | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈貯蔵・保管方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ コード類の取り外しに際してはコードを持って引くなどの無理な力をかけないこと。</li> <li>■ 付属品、コードは清浄したのち、整理してまとめておくこと。</li> <li>■ 本機は次回の使用に支障のないように必ず清浄にしておくこと。</li> <li>■ 水ぬれに注意して、直射日光及び高温多湿をさけて保管すること。</li> <li>■ ほこり、塩分、イオウ分などを含んだ空気等により悪影響を生じるおそれのない場所に保管すること。</li> <li>■ 本機を保管する時は、次の使用に備えてバッテリーを満充電しておくこと。</li> </ul> | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈保管に関する注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 直射日光や紫外線照射下に長時間放置しないこと。</li> <li>■ 水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。</li> <li>■ 振動、塵埃、腐食性ガス等の多い場所に保管しないこと。</li> </ul>   |
| 79  | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈耐用期間〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定の保守・点検ならびに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間 6年[自己認証(当社データ)による]</li> </ul>   | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈有効期間・使用の期限〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ・指定の保守、点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6年(自己認証による)</li> </ul>  | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈有効期間〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定の保守点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6年[自己認証(当社データ)による]</li> </ul>  | <p><b>【貯蔵・保管方法及び使用期間等】〈耐用期間〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指定の保守・点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用期間：6年[自己認証(当社データ)による]</li> </ul>   |
| 80  |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品の使用前、及びしばらく使用せず再び使用する際には、必ず使用前点検を実施すること。異常が認められた場合には、本品は使用せず、点検、修理を依頼すること。[本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]</li> </ul>  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 使用の前には、必ず始業点検を実施すること。異常が認められた場合、ただちに使用を中止し、弊社担当者まで連絡すること。</li> </ul>  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 使用の前には、必ず使用前点検を実施すること。異常が認められた場合、ただちに使用を中止し、販売元又は納入業者に連絡すること。</li> </ul>  |
| 81  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品の分解・改造をしないこと。[本品の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす可能性がある。]</li> </ul>  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品の分解、改造、修理(表示部や可動部へのテープ留め等、機能や性能を阻害する行為含む)をしないこと。[本品の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす可能性がある。]</li> </ul>   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本機の分解・改造はしないこと。[本機の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす場合がある。]</li> </ul>  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 装置の分解・改造をしないこと。[装置の故障や破損、装置性能の劣化を引き起こす場合があります。]</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈その他の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自分で分解や修理をすることはさらに大きな故障の原因となるので行わないこと。</li> </ul> |



| No. | 製品 A  | 製品 B  | 製品 C   | 製品 D  |
|-----|---|---|--|---|
| 82  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床への落下や、IV ポールの転倒などによる衝撃が加わった場合は、直ちに使用を中止すること。[本体外観に異常が認められない場合でも、内部が破損し過大注入等になる可能性があるため、点検確認が必要。]</li> </ul>  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品は精密機器のため、床への落下、輸液スタンドの転倒、強くぶつけるなどによる衝撃が加えられた場合はそのまま使用しないこと。[本品外観に異常が認められない場合でも、内部が破損し、流量精度や各種警報機能等の本品が有する機能や性能が得られない可能性があるため、点検確認が必要である。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床への落下や、点滴スタンドの転倒などによる衝撃が加わった場合は直ちに使用を中止すること。[本体外観に異常が認められない場合でも、内部が破損しているおそれがある為、点検確認を行う必要がある。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床への落下や、点滴スタンドの転倒などによる衝撃が加わった場合は直ちに使用を中止すること。[本体外観に異常が認められない場合でも、内部が破損している可能性があるため、点検確認が必要です。]</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>落下、衝撃が加わった場合は、本体の外観及び動作に異常が認められない場合でも、ただちに使用を中止して点検を行なうこと。</li> </ul>        |
| 83  |   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品を殺菌消毒液（ポビドンヨード等）を送液する目的では使用しないこと。[殺菌消毒液の成分が付着することにより、本品の部品の劣化や破損につながる可能性がある。]</li> </ul>  |  |   |
| 84  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常点検および年に1度の定期点検を必ず実施すること。[患者に重篤な健康被害を与える可能性がある。日常点検および定期点検は【保守・点検に係る事項】を参照し、詳細については取扱説明書を参照すること。]</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全に使用するために、定期的に保守点検を実施し、各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。</li> <li>バッテリーは放電状態で保管しないこと。[放電状態のまま保管するとバッテリーが劣化し、緊急時に使用できなくなる可能性がある。]</li> </ul>                |  | <p><b>【保守・点検に係る事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全に使用するために、定期的に保守点検を実施し、各点検で異常が認められた場合は、直ちに使用を中止すること。</li> <li>N i - c d 電池は、放電状態で保管しないこと。[放電状態のまま保管するとN i - c d 電池が劣化し、緊急時に使用できなくなる可能性がある。]</li> </ul>   |
| 85  |   | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬液が固着していると、輸液や警報検出が正しく行われなことがある。薬液が付着した場合は、速やかに綿棒等で汚れをよく拭き取るなどの清掃を行うこと。</li> </ul>   |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬液が固着していると、送液や警報検出が正しくおこなわれないことがあります。薬液が付着した場合は、すみやかに綿棒等で汚れを拭き取る等の清掃を行うこと。</li> </ul> <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬液が固着していると、輸液や警報検出が正しく行われなことがある。薬液が付着した場合は、速やかに綿棒等で汚れをよく拭き取るなどの清掃を行うこと。</li> </ul> |

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C   | 製品 D   |
|-----|--|--|--|--|
| 86  | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検に関する注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 清掃のとき、気泡センサ面、滴落センサ面に傷をつけないようにすること。</li> <li>▪ アルコール、シンナーなどの有機溶剤では拭かないこと。</li> <li>▪ 酸化水素水を含む消毒剤・除菌洗浄剤等で拭かないこと。</li> <li>▪ 滴落検知器のプラグを濡らさないこと。</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 使用前、使用後に本品の清掃を行うこと。消毒を行う際は、オートクレーブや滅菌器等は使用せず、消毒液を浸したガーゼ等をよくしぼってから本体を軽く拭き、その後、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等で、消毒液を拭き取り、更に乾いた柔らかい布等で水気をよく拭き取ること。なお、希釈率はその製品の添付文書の記載に従うこと。使用可能な消毒液例は以下のとおりである。クロルヘキシジングルコン酸塩／ベンザルコニウム塩化物</li> <li>▪ 清掃するときは、必ず本品の電源を切り、AC電源コード、DCケーブルを抜いてから行うこと。[本品の故障や感電等を起こす可能性がある。]</li> <li>▪ 清掃の際は、チューブ装着面に傷がつかないようにすること。</li> <li>▪ アルコールやシンナー等の有機溶剤やポビドンヨードでは拭かないこと。[有機溶剤を使用したり、使用可能な消毒液以外を使用した場合、本品の破損や故障の原因となる。]</li> <li>▪ ドライヤー等を使用して乾燥させないこと。[本品が破損する可能性がある。]</li> <li>▪ 本体を、流水や水没させての洗浄は行わないこと。[本品は防水構造ではないため、破損、故障する可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 洗浄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 本機は、常に清潔にするように心がけ、薬液の付着や、汚れは、柔らかい布をぬるま湯で湿らせて拭くこと。</li> </ul> <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉 滅菌</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 本機を、スチームオートクレーブにかけた後、薬液に浸さないこと。</li> <li>▪ 本機の滅菌は、58℃以下、相対湿度 60%以下の条件で EOG 滅菌し、室内で 24 時間か、エアーレータで 8 時間換気を行うこと。この方法は、あくまでも目安なので適切な方法で滅菌の有効性を確認すること。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ポンプの洗浄に注意すること。特に電源接続部（インレット）、電源スイッチ及びヒューズ部は注意すること。</li> <li>▪ 清掃の際は、チューブ装着面に傷がつかないように注意すること。センサー部に傷が付くと誤動作の原因となります。</li> <li>▪ 高圧蒸気滅菌にかけたり、薬液に浸さないこと。</li> <li>▪ センサー部はぬるま湯に浸したガーゼ等にて、定期的に清掃を行うこと。</li> </ul> <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 使用前、使用後に本品の清掃を行うこと。消毒を行う際は、滅菌器等は使用せず、消毒液を浸したガーゼ等をよくしぼってから本体を軽く拭き、その後、水又はぬるま湯を浸してよくしぼったガーゼ等で、消毒液を拭き取り、更に乾いた柔らかい布等で水気をよく拭き取ること。なお、消毒液の希釈率はその製品の注意書きの指示に従うこと。使用可能な消毒液例は以下のとおりである。・消毒用アルコール ・塩化ベンザルコニウム（50～200倍液）</li> <li>▪ 清掃するときは、必ず本製品の電源を切り、AC電源コードを抜いてから行うこと。[本製品の故障や、感電等を起こす可能性がある。]</li> <li>▪ シンナー等の有機溶剤やポビドンヨードでは拭かないこと。[有機溶剤や使用可能な消毒液以外を使用した場合、本製品の破損や故障の原因となる。]</li> <li>▪ 本製品を、流水や水没させての洗浄は行わないこと。[本製品は防水構造ではないため、破損、故障する可能性がある。]</li> </ul> |

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D   |
|-----|--|--|---|--|
| 87  | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> <li>▪ 詳しくは取扱説明書の「日常点検」を参照。</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 以下の定期点検は半年に1度行うこと。<br/>本機の外観のチェック:装置外観上の割れ、大きな傷がないかを確認すること。操作パネルに破れ、傷がないかを確認すること。</li> <li>・ 輸液流量のチェック ・メスシリンダーとストップウォッチを使用し輸液流量のチェックをすること。</li> <li>・ 警報機能のチェック</li> <li>・ ドアオープン警報…輸液中にドアを開き、表示と警報音を確認すること。</li> <li>・ 閉塞警報…ローラークレンメを閉じ、輸液を行い、表示と警報音を確認すること。<br/>（検出圧設定により、高圧が発生する場合があるので、十分注意して操作すること）</li> <li>・ 気泡警報…Ar-0 設定にて、チューブ内の長さで空気を10mm～20mm 混入し、輸液を行い、表示と警報音を確認すること。</li> <li>・ バッテリーのチェック: バッテリーは消耗品です。劣化した場合は交換が必要です。(取扱説明書「定期点検」の項を参照のこと。)</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> <li>▪ 保守点検に係る詳細については、本体添付の「ニプロ自動輸液ポンプFP-1200 s 保守点検マニュアル」を参照のこと。</li> </ul> |
| 88  | <p><b>【保守・点検に係る事項 企業による保守・点検】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> <li>▪ 詳しくは当社担当者に問い合わせること。</li> </ul>    | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈企業による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> </ul>  | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈使用者による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> </ul>  | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈企業による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 表：省略（点検項目、点検頻度、点検内容）</li> </ul>  |

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C   | 製品 D  |
|-----|--|--|--|---|
| 89  | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検に関する注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交換部品は、指定部品を使用すること。</li> </ul> | <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交換部品は指定部品以外使用しないこと。<br/>[本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]</li> </ul>   | <p><b>【保守・点検に係る事項〈使用者による保守・点検〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐用寿命を越える場合は、必ず部品交換を含む総合的な点検修理を行うこと。(バッテリーを除く)</li> <li>定期交換部品 ・定期交換部品とは使用中に徐々に劣化が進み、機器の精度・能力を維持するために定期的な交換が必要な部品のことです。本機では下記の部品が定期交換部品となっている。</li> <li>表：省略(品名、耐用寿命、交換の目安)</li> <li>保守部品のメーカー保有期間は、自主基準により、当該医療機器を医療機関に引渡した時から6年です。</li> <li>本機を廃棄又は、リサイクルする場合は、バッテリーを外してから行うこと。</li> <li>使用済みのバッテリーは弊社代理店まで返却するか、又は法規・規制に従い適切な方法で処分すること。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈その他の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内蔵電池の交換は、取扱説明書の電池交換方法及び交換上の注意を見て行うこと。</li> </ul> <p><b>【保守・点検に係る事項】〈保守・点検上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交換部品は指定部品以外を使用しないこと。[本製品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]</li> <li>本機器の「保守部品のメーカー保有期間」は、製造中止通知後耐用期間内の6年とします。</li> </ul> |
| 90  |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品で輸液を行う際は、積算量に早送り量を考慮に入れること。[本品は、早送り量を積算量に加算する仕様であるため、考慮に入れない場合は実輸液量との差異が発生する。]</li> </ul>  |  |   |
| 91  |  | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テルフュージョンポンプ用輸液セット(PVCフリー)及びシュアプラグ輸液セット(ポンプ用・PVCフリー)を次の条件で使用した場合、開始時に薬液が数秒から数十秒流れず、流量異常警報が発生することがある。(点滴プローブ使用時) ・30℃以上の環境で使用した場合 ・チューブをセットし、ドアを閉めた状態で数分以上放置した場合</li> </ul> |  |   |
| 92  |  |  |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>速効性の薬液や粘度の極端に高い薬液には使用しないこと。</li> </ul>  |



| No. | 製品 A | 製品 B | 製品 C | 製品 D  |
|-----|------|------|------|---|
| 93  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 早送りした量は、積算値に加算されません。</li> </ul>  |
| 94  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「早送り」スイッチは、連続1分以上受け付けません。強制的に停止となります。</li> </ul>   |
| 95  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 輸液開始よりの「積算量」、「積算時間」を確認したい場合は「表示切替」スイッチにより表示を切り替えて確認すること。</li> </ul>  |
| 96  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 注入中は注入量、予定量、注入終了予定時間の変更はできません。一旦、輸液を停止してから行うこと。</li> </ul>   |
| 97  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 積算量のリセットは、ポンプを停止状態とし、表示を積算量の表示とし「積算量リセット」スイッチを2秒以上押すこと。同時に「積算時間」もクリアされます。</li> </ul>                                     |
| 98  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 注入量設定値が100mL/h以下の場合、警報表示「閉塞」が点滅することがあります。これはカムブレードの波形注入方式による注入圧の増減にセンサーが反応しているためです。規定の閉塞検知圧まで圧力があがれば、警報となります。</li> </ul> |
| 99  |      |      |      | <p>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 警報表示「電池」には、予告警報があります。電池での動作が出来なくなる約30分前に予告警報となります。</li> </ul>  |

| No. | 製品 A  | 製品 B   | 製品 C | 製品 D  |
|-----|---|--|------|---|
| 100 |   |  |      | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■微量の気泡混入の場合、「気泡」の警報表示が点滅することがあります。気泡の量が増加し規定の値に達すと警報になります。</li> </ul> |
| 101 |   |  |      | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「気泡」の警報表示は、扉が開いていると輸液セットの装着有無に関係なく点滅します。気泡センサーが扉部にあるためです。</li> </ul> |
| 102 |   |  |      | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「輸液完了」警報時は、注入速度がいかなる速度設定においても 1 mL/h にスローダウンします。</li> </ul>          |
| 103 | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■電動クランプ（オプション）を装備している場合は、電動クランプが開いていることを確認後、輸液セットを装着すること。電動クランプが閉じているときは、一度電源を OFF し、再度 ON すること。</li> </ul> |  |      |   |
| 104 |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈使用方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■予定量を「----」（予定量設定なし）で輸液を行った場合、輸液剤が無くなり気泡混入警報が発生するまでポンプは停止しないため、薬剤が無くなる前に停止すること。安全のため、輸液剤容量よりも若干少なめの予定量を設定して使用することを推奨する。</li> </ul> |      |   |

別 添 2

## パシリンジポンプ添付文書（現行） 各製品の記載内容の比較

| No. | 製品 A  | 製品 B  | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|---|---|---|---|
| 1   | <p><b>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品には指定外のシリンジを使用しないこと。[注入精度や警報機能が保証できない。]</li> </ul>  | <p><b>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品には、テルモシリンジ及び指定の薬剤充填シリンジ以外は使用しないこと。[指定外のシリンジを使用した場合、流量精度や警報機能が保証できない。]</li> </ul>   | <p><b>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本機には、指定のシリンジ以外は使用しないこと。[指定外のシリンジを使用した場合、流量精度や警報機能が保証できないだけでなく、医療事故につながるおそれがある。]</li> </ul>   | <p><b>【禁忌・禁止】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本製品には、指定のメーカー、シリンジサイズ以外を使用しないこと。[指定外のシリンジを使用した場合、流量精度や警報機能が保証できないだけでなく、医療事故につながる危険性がある。指定のシリンジは取扱説明書を参照のこと。]</li> </ul>  |
| 2   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジの仕様が変わった場合、本品のシリンジ識別又は流量精度等が正常に動作しないことがある。</li> </ul>   | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 2) 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジの仕様変更された場合、流量精度や警報機能が保証できない可能性がある。異常が認められた場合は、直ちに使用を中止し、弊社担当者まで連絡すること。</li> </ul>   |   | <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 2) 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジの仕様変更された場合、流量精度や警報機能が保証できない可能性がある。異常が認められた場合は、直ちに使用を中止し、発売元または納入業者に連絡すること。</li> </ul>   |
| 3   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用するシリンジのメーカーを変更する場合は、シリンジメーカー識別シールを貼り替えること。[本品のシリンジメーカー設定と使用するシリンジが一致していないと本品が正常に動作しない可能性がある。]</li> </ul>  |   |   |   |
| 4   | <p><b>【警告】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の電源 ON 時に流量・積算量表示部に表示されるシリンジメーカー番号及びシリンジメーカー識別シールと一致するシリンジを使用すること。[注入精度や警報機能が保証できない。]</li> </ul> <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の電源 ON 時に流量・積算量表示部に表示されるシリンジメーカー番号とシリンジメーカー識別シールが、使用するシリンジと一致していることを確認すること。[一致していない場合は、本品が正常に動作しない原因となる。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源投入後、液晶表示部に表示されるシリンジメーカー名と一致するメーカーのシリンジを使用すること。[流量精度や警報機能が保証できない。]</li> </ul> <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジ装着時に液晶表示部に表示されるシリンジサイズと使用するシリンジのサイズが一致していることを確認すること。[正しく装着されていない場合、シリンジのサイズを誤って検出する可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源 ON 時の操作パネルの表示が、使用するシリンジメーカーと一致していることを確かめてから使うこと。一致していないと本機が正常に作動しないおそれがある。(取扱説明書「使用できるシリンジ」の項を参照のこと。)</li> </ul> | <p><b>【警告】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源投入時「注入量値表示部」に表示されるシリンジメーカー表示記号と一致するメーカーのシリンジを使用すること。[注入量や警報機能が保証できない。]</li> </ul> <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジ装着時に点灯する「シリンジサイズ」表示ランプのサイズと、使用するシリンジのサイズが一致していることを確認すること。[正しく装着されていない場合、シリンジのサイズを誤って検出する可能性がある。]</li> </ul> |



| No. | 製品 A   | 製品 B  | 製品 C   | 製品 D   |
|-----|--|---|--|--|
| 5   |  | <p><b>【警告】〈併用医療機器〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1%ディプリバン注-キット（アストラゼネカ(株)販売）を使用する際は、mg/kg/h DIPRIVANPFS等の専用の投与単位を使用すること。（型式：TE-352のみ対象）[流量精度や警報機能の異常が発生する可能性がある。]</li> </ul>   |  |  |
| 6   | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジのセット時に、シリンジのプランジャ（押し子）が確実に本品のプランジャホルダのフックにセットされていること及びシリンジ外筒のツバ(フランジ)が本品のスリットに入り込んでいること等、本品の各種検出部に正しくシリンジがセットされていることを確認すること。[プランジャホルダのフックからシリンジのプランジャ（押し子）が外れて急速注入されたり、シリンジサイズを誤って検出する等、正常な注入が行われない可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジセット時に、シリンジの押し子が確実にスライダのフックにセットされていること及び、シリンジのフランジがスリットに入り込んでいることなど、各種装着部に正しくシリンジがセットされていることを確認すること。また、本品と患者との落差をできるだけ小さくすること。[スライダのフックからシリンジの押し子が外れて急速注入されたり、シリンジのサイズを誤って検出するなど、正しく薬液が注入されない可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジ装着時に、シリンジの押し子が確実に押しスライダのフックに装着されているか、シリンジのフランジがスリットに入り込んでいるか等、各種検出部に正しくシリンジが装着されているかを確認すること。[正しく装着されていない場合、薬液の過大注入（サイフォニング（自然落下による過大注入））や未投与など正常な送液が行われないおそれがある。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジを装着する時は、シリンジの押し子が確実にプッシャー部のフォークにセットされていること、シリンジのツバがシリンジ受け部の溝部に入り込んでいることなど、正しくシリンジが装着されていることを確認すること。[プッシャー部のフォークよりシリンジの押し子が外れて急速注入されたり、シリンジサイズを誤って検出する等により、正常な輸液が行われないおそれがある。]</li> </ul> |
| 7   |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>押し子をスライダにセットするときは、シリンジの押し子とスライダの間に隙間がないことを確認すること。[隙間がある状態で押し子をセットした場合、スライダのフックでエアや薬液が引き込まれる可能性がある。]</li> </ul>  |  |  |
| 8   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジのプランジャ（押し子）がシリンジの外筒に対し、水平にセットされていることを確認すること。[シリンジのプランジャ（押し子）が斜めになっているとシリンジが浮き、警報が発生する可能性がある。]</li> </ul>   |   |  |  |

| No. | 製品 A  | 製品 B   | 製品 C   | 製品 D  |
|-----|---|--|--|---|
| 9   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品にシリンジをセット後、シリンジサイズ表示ランプが点滅する場合は、シリンジのプランジャ（押し子）が外れているか又はクラッチが正常にロックできていないため、シリンジのプランジャ（押し子）を再セットすること。なお、シリンジのプランジャ（押し子）を再セットしないで開始スイッチを押しても注入は開始できない。</li> </ul>                              | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔シリンジセット〕 警報ランプが点滅、動作インジケータ及び液晶表示部が赤色点滅し、ブザーが鳴っている場合は、シリンジがシリンジ検出部中央にセットされているかを確認し、再度セットし直すこと。〔シリンジが正しい位置に装着されないと、送液を開始できない。〕</li> </ul> |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「シリンジサイズ」表示ランプがすべて点滅している場合は、シリンジがシリンジ受け部に正しくセットされているかを確認し、再度セットし直すこと。〔シリンジが正しい位置に装着されないと、「シリンジサイズ」表示ランプが点滅し、開始できない。〕</li> </ul> |
| 10  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の注入開始時は、シリンジが正しく本品にセットされていることを確認すること。又、注入開始後は、本品の運転／警報表示ランプが緑色に点滅していることを確認すること。〔本品が動作しない、又は輸液途中の過大注入等の可能性がある。〕</li> </ul>   |  |  |   |
| 11  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジの外筒にテープ類を貼付しないこと。投薬名等記入のため、やむなく貼付する場合には、本品のシリンジランプで押さえる位置及び本品に接触している部分を避けること。〔シリンジの外筒寸法が変わるため、シリンジ外れ（シリンジサイズ識別異常）警報が発生しやすくなる。〕なお、これに従ってセットしても警報が発生した場合には、シリンジを再セットした後に注入を開始すること。</li> </ul> |  |  |   |
| 12  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジの装着状態やシリンジ目盛印字のズレ等により、シリンジ目盛の見た目上、残量警報が発生する位置が異なって見える場合がある。</li> </ul>  |  |  |   |
| 13  |   |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一度使用したシリンジは再使用しないこと。また、再滅菌を行わないこと。使用後は適切な方法で処分すること。</li> </ul> | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジは再使用しないこと。〔再使用すると感染するおそれがある。〕</li> </ul>  |

| No. | 製品 A  | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|---|--|---|---|
| 14  |   |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液回路との接続を確実なものにするために、ロックタイプの製品の使用を推奨する。</li> </ul>  |   |
| 15  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液開始時には輸液状態(薬液の減り具合)や接続部位、穿刺部位を確認すること。又、輸液中にも定期的に巡回時等で同様な確認を行うこと。[本品は、1.輸液の精度を直接測定する原理で動作していない。2.患者の状態を監視する機能を有していないため、本品が適正に動作していた状態で患者の状況が変化しても検知できない。3.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできない。4.留置針等が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有していない。5.他の輸液システムと併用する場合、仕様通り動作しないことがある。]</li> </ul>                         | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液開始時には、輸液状態(薬液の減り具合)や接続部位、穿刺部位を必ず確認すること。また、輸液中にも定期的に巡回時等で同様な確認を行うこと。[本品は、1.輸液の精度を直接測定する原理で動作していない。2.患者の状態を監視する機能を有していないため、本品が適正に動作していた状態で患者の状況が変化しても検知できない。3.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできない。4.静脈針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有していない。5.他の輸液システムと並行して使用する場合、仕様どおり動作しないことがある。]</li> </ul>              | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液開始時や巡回時には、必ず定期的に輸液状態(シリンジの作動状態、輸液の減り具合)や穿刺部位を確認すること。[本機は、1.輸液の精度を直接測定する原理で動作していない。2.輸液ラインの外れ、フィルタの破損等による液漏れを検出することはできない。3.注射針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有していない。]</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液中は本機の警報機能だけに頼らず常に監視を行い、シリンジ内の残液量をチェックすること。</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注入開始時には、注入状態(薬液の減り具合)や穿刺部位を確認すること。また輸液中にも定期的に巡回時等で同様な確認を行うこと。[本製品は 1.注入の精度を直接測定する原理で動作していない。2.注入回路の外れ、フィルタの破損などによる液漏れを検出することはできない。3.静脈針が静脈より外れて血管外注入になった場合の警報機能は有していない。4.他の輸液システムと並行して使用した場合、仕様通りに作動しないことがある。5.患者の状態を監視する機能を有していないため、本製品が適正に動作していた状態で患者の状況が変化しても検知できない。]</li> </ul>           |
| 16  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液ラインのチューブの折れ、クランプ等の開け忘れ、フィルタのつまり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、輸液ラインのできるだけ下流をクランプして輸液ラインの内圧を開放した後、閉塞の原因を取り除いて注入を開始すること。[1.輸液ラインの内圧が高くなっているため、この状態のまま閉塞の障害を取り除くと患者に“ボーラス注入(薬液の一時的な過大注入)”される。2.閉塞の原因を取り除かないで注入を開始した場合、繰り返し閉塞警報状態になったり、輸液ラインの破損や接続部が外れたり、ボーラス注入(薬液の一時的な過大注入)される等、正常な注入が行われない可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液ラインのチューブの折れ、クレンメ等の開け忘れ、フィルタのつまり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、輸液ラインのできるだけ下流をクランプしてから、輸液ラインの内圧を開放し、その後、閉塞の原因を取り除いて開始すること。[1.本品から、下流の閉塞発生箇所までの輸液ラインの内圧が高くなっている状態である。このまま閉塞の障害を取り除くと患者に“ボーラス注入(薬液の一時的な過大注入)”されてしまう。2.閉塞の原因を取り除かないで開始した場合、くり返し閉塞警報状態になったり、輸液ラインの薬液がシリンジ内に戻るなど、正常な輸液が行われない可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>輸液ラインのチューブの折れ、フィルタのつまり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、輸液ラインをクランプする等の適切な処置を行うこと。[輸液ラインの内圧が高くなっているため、この状態のまま、閉塞の障害を取り除くと患者に“ボーラス注入(薬液の一時的な過大注入)”されるおそれがある。]</li> </ul>   | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注入回路のチューブの折れ、三方活栓の開け忘れ、フィルタの詰まり及び注射針内の血栓等により閉塞状態が発生した場合には、注入回路のできるだけ下流で注入回路をクランプし、注入回路の内圧を開放した後、閉塞原因を取り除くこと。[1.注入回路の内圧が高くなっている為、この状態のまま閉塞の障害を取り除くと患者に“ボーラス注入(薬液の一時的な過大注入)”されてしまう。2.閉塞の原因を取り除かず開始した場合には、閉塞警報が正常に動作せず、注入回路の内圧が高まり、注入回路の接合部などの外れ、破損やボーラス注入(薬液の一時的な過大注入)などが生じる可能性がある。]</li> </ul> |
| 17  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の警報音量は聞こえない音量にしないこと。音量を小さくした場合は警報の確認には十分に注意すること。</li> </ul>   |  |   |   |



| No. | 製品 A  | 製品 B   | 製品 C   | 製品 D   |
|-----|---|--|--|--|
| 18  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の使用中に警報が鳴った場合は、取扱説明書の「警報が発生したとき」の説明に従って対応すること。</li> </ul>   |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警報が出た状態では使用しないこと。</li> </ul>   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警報が発生した場合には、警報の原因を明らかにし、適切な処置を行うこと。</li> </ul>   |
| 19  |   |  | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>残量警報はシリンジ内の薬液残量が少なくなったことを知らせる警報です。注入を継続する場合は、シリンジを交換すること。</li> </ul>   |  |
| 20  |   |  |  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以下の設定の変更を行った時は、正しく変更が出来ていることを再確認すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>終了警報検知点設定</li> <li>閉塞検出圧設定</li> </ul> </li> </ul>   |
| 21  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品には、気泡の検出機能が無いので、事前にシリンジ及び輸液ラインのエア抜きを行うこと。</li> <li>患者に留置針等を穿刺する前に本品の早送りスイッチを押して、プライミングを行うこと。[シリンジのプランジャ(押し子)と本品のプランジャホルダの間及びシリンジ外筒のツバ(フランジ)と本品のスリット(クランプ側)の間に隙間があると、開始後しばらくの間注入されない原因となる。]</li> </ul> | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静脈針を穿刺、又は接続部に輸液ラインを接続する前に、必ず[早送り]スイッチを押して輸液ライン内のエア抜きを行うこと。[本品は1. 輸液ラインのエアを検出する機能が無いため、エア注入により患者に障害を与える可能性がある。2. シリンジの押し子とスライダ間及びシリンジのフランジとスリット(クランプ側)の間に隙間があると、開始後しばらくの間注入されない原因となる。]</li> </ul> | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本機には、気泡の検出機能はない。事前にエア抜きを行うこと。</li> <li>患者に注射針を穿刺する前およびシリンジを交換した際には、必ずプライミングを行い、スライダーが押し子を押している状態にすること。</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シリンジをセットして、患者に静脈針を穿刺する前に必ず早送り操作にてプライミングを行い、静脈針の先端まで薬液を満たすと同時に押し子のフランジとスライダー間およびシリンジ外筒のフランジとシリンジ固定溝間に隙間がないようにすること。</li> </ul> | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者に注入回路等の針を穿刺する前に、必ず早送り動作を行い注入回路内のエア抜きとシリンジ装着の微小な隙間取りを行うこと。[本製品は、1. 注入回路のエアを検出する機能が無いため、エア注入により患者に障害を与える可能性がある。2. シリンジの押し子とプッシャー間及びシリンジのフランジとシリンジ受け溝との間に隙間があると、開始後しばらくの間注入されない原因となる。]</li> </ul> |
| 22  |   |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>血管が確保されたことを確認してから使用すること。</li> </ul>  |  |



| No. | 製品 A   | 製品 B  | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|--|---|---|---|
| 23  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品の電源は、シリンジをセットしない状態で ON にすること。[自己診断機能動作時にモータチェックが作動しない。]</li> </ul>   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シリンジを装着しない状態で電源を入れ、液晶表示部及び警報ランプの点滅とブザーの鳴動を確認すること。[シリンジを装着した状態で電源を入れた場合には、本品のセルフチェック（自己診断）を正常に行うことができない。]</li> </ul>             | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 使用の前に一度電源を入れ、セルフチェックの終了及びランプの点灯を確認すること。</li> </ul>  |   |
| 24  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品の注入開始前に流量・積算量表示部の小数点位置に注意し、流量の設定が正確に行われていることを確認すること。</li> </ul>  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 輸液を開始する前には、流量等の桁を間違えていないかなど、設定の確認を行うこと。[本品は、設定された値が妥当であるかを判断する機能は有しておらず、患者に過大注入又は過小注入となる可能性がある。]</li> </ul>                     | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本機のスタート/ストップキーを押す前に、小数点位置に注意し、流量の設定が正確になされていることを確認すること。</li> </ul>                              | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 注入を開始する前には、注入量入力値、予定量を設定している場合は、予定量入力値の桁を間違えていないかなど、設定値の確認を行うこと。[本製品は、設定された値が妥当であるかを判断する機能は有しておらず、患者に過大注入又は過小注入となる可能性がある。]</li> </ul> |
| 25  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品からシリンジを外す場合は、輸液ラインを閉じてから外すこと。</li> </ul>   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シリンジを外す際は、輸液ラインの三方活栓等を閉じてから外すこと。[薬液の過大注入（サイフォニング（自然落下による過大注入））の可能性がある。]</li> </ul>  |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シリンジを外す際は、注入回路の三方活栓等を閉じてから外すこと。[薬液の過大注入（サイフォニング（自然落下による過大注入））の可能性がある。]</li> </ul>   |
| 26  |  | <p><b>【警告】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ シリンジの押し子やスライダ一部分に衝撃を加えないこと。[シリンジの押し子が押され、患者にボーラス注入される可能性がある。]</li> </ul>  |   |   |
| 27  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本品と重力式輸液を並行して使用しないこと。[重力式輸液ライン接続部分より下流で閉塞が発生した場合、閉塞警報を発報しない。又、重力式輸液ラインが先に空になったことが原因で本品より下流の輸液ライン接続部分で気泡を巻き込んだ場合等は、正常な輸液が行われず警報も発報しない。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 重力式輸液と並行して使用しないこと。[本品は 1. 重力式輸液ラインとの接合部分より下流で閉塞が発生した場合、閉塞警報が動作しない。 2. 重力式輸液ラインが先に空になったことが原因でポンプ下流の輸液ライン接合部分で気泡を巻き込んだ場合等は、正常な輸液が行えない。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本機と重力式輸液とを並行して使用しないこと。[ポンプ下流の輸液ライン接合部分で気泡が発生したり、接合部分より下流の閉塞が検出できないなど、正常な輸液が行われなくなる場合がある。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本製品と重力式輸液とを並行して使用しないこと。[重力式輸液回路接合部分より下流の閉塞が検出できない、重力式輸液回路が先に空になったことが原因で気泡の巻き込みなど、正常な輸液が行われない。]</li> </ul>  |

| No. | 製品 A   | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|--|--|---|---|
| 28  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品を極端な陰圧や陽圧が発生する可能性のある体外循環回路等には使用しないこと。[シリンジのガスケットがプランジャ（押し子）から外れたり、本品のプランジャホルダのフックからシリンジのプランジャ（押し子）が外れて、急速注入される場合や正しく注入されない可能性がある。又、ボラス注入や逆流等、正しく注入されない可能性がある。]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品を極端な陰圧や陽圧が発生する可能性のある体外循環回路等には使用しないこと。[シリンジのガスケットが押し子から外れたり、スライダのフックからシリンジの押し子が外れて急速注入される場合や正しく注入されない可能性がある。また、ボラス注入や逆流等、正しく注入されない可能性がある。]</li> </ul>  | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本機を極端な陰圧が発生する可能性のある回路には使用しないこと。[シリンジポンプのスライダのフックからシリンジの押し子が外れてしまうおそれがある。]</li> <li>本機を極端な圧が発生する可能性のある回路には使用しないこと。[急速注入の原因となる。]</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈相互作用〉 2) 併用注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本機を極端な陰圧が発生する回路で使用すると、シリンジポンプのスライダのフックからシリンジの押し子が外れてしまうことがある。極端な陰圧が発生する可能性がある回路には使用しないこと。[急速注入の原因となる]</li> </ul> | <p><b>【禁忌・禁止】〈使用方法〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本製品を極端な陰圧や陽圧が発生する又は、発生の可能性のある対外循環回路等に使用しないこと。[シリンジのガスケットが押し子から外れたり、プッシャー部のフォークよりシリンジの押し子が外れたりしたことによる急速注入の可能性がある。又、ボラス注入や逆流など正しく注入されない可能性がある。]</li> </ul>   |
| 29  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品での薬液注入中は、輸液ラインの閉塞等に注意し、定期的に確認すること。特に、微量注入時は閉塞発生から検出（警報）までの時間が長くなるため、確認を十分にすること。[注入が長時間中断する可能性がある。]</li> </ul>  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>微量注入で使用する場合は、低温環境で使用する場合は、閉塞の発生がないことなど、輸液状態に特に注意すること。[次の理由により、長時間、輸液が中断する可能性がある。1. 設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなる。2. 低温になると、シリンジの動きが悪くなり（押し子の摺動抵抗が増加）、閉塞警報が多発する原因となる。]</li> </ul> | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低流量で使用する場合は、輸液ラインの折れ等に特に注意すること。設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなるため、長時間輸液が中断する場合がある。</li> </ul>  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>微量注入で使用する場合は、低温環境で使用する場合は、閉塞の発生がないことなど、注入状態に特に注意すること。[次の理由により、長時間、注入が中断する可能性がある。1. 設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなる。2. 低温になると、シリンジの動きが悪くなり（押し子の摺動抵抗が増加）、閉塞警報が多発する原因となる。]</li> </ul> <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小児や老人など低流量で使用する場合は、輸液ラインの折れなどに特に注意すること。[設定流量が低くなるにつれ、閉塞発生から検出までの時間が長くなるため、長時間注入が中断する場合がある。]</li> </ul> |

| No. | 製品 A  | 製品 B   | 製品 C  | 製品 D  |
|-----|---|--|---|---|
| 30  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品は高粘度の薬液を細い留置針等で早送りする場合、閉塞警報が発生する場合があります。</li> </ul>   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高粘度の薬液を細い静脈針で早送りする場合、輸液ラインが閉塞していない場合でも閉塞警報が出やすい傾向がある。このときは、早送りせず 150mL/h 以下の流量で送液すること。[早送りし続けた場合、閉塞警報が頻発したり、送液できない原因となる。]</li> </ul>   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高粘度の薬液を細い静脈針で早送りする場合、閉塞警報が出ることがある。この時は、早送りせず 150mL/h 以下の流量で送液すること。</li> </ul> |   |
| 31  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の閉塞警報の警報表示ランプが点灯していない場合でも、閉塞警報発生後はシリンジの内圧が高まっている場合がある。閉塞警報発生後は、閉塞の原因を取り除いてから再開すること。</li> </ul> <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本品の閉塞圧設定の 3 段階(L,M,H)は、使用状況(シリンジサイズ/流量/薬液粘度/落差/他のポンプとの併用等)に応じて、適切な設定にすること。なお、流量、閉塞圧、閉塞警報発生時間及び閉塞解除後のポーラス量の関係については、取扱説明書の「装置の特性」を参照すること。</li> </ul> | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閉塞警報がでた後は、必ず閉塞の原因を解除してから開始すること。[本品は閉塞対処時のポーラス量を軽減させるため、閉塞警報発生時に輸液ラインの内圧を自動減圧させる機能(スライダを引き戻し、積算量を減算する)があるため、原因の解除を行わないで開始した場合は、くり返し閉塞警報状態になったり、輸液ラインの薬液がシリンジ内に戻るなど、正常な輸液が行われない可能性がある。]</li> </ul> |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>閉塞警報が発生した時は、必ず閉塞の原因を解除してから開始すること。[閉塞状態を放置すると、しばらくして検知圧以下に下がり警報表示が消える場合がある。閉塞の原因を取り除かず開始すると再度閉塞警報となるが、この状態を繰り返すと閉塞検知センサーの破損又は閉塞警報圧検知の誤検知になるおそれがある。]</li> </ul> |
| 32  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用する薬液は室温に馴染ませてから使用すること。[冷えたまま使用すると溶存空気が気泡化し、空気を注入する可能性がある。又、シリンジのプランジャ(押し子)の摺動抵抗が増加することにより、閉塞警報による本品の停止が多発する原因となる。]</li> </ul>   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬液は室温になじませてから使用すること。[冷えたまま使用するとシリンジの動きが悪くなり(押し子の摺動抵抗が増加)、閉塞警報が多発する原因となる。]</li> </ul>   |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>薬液は室温になじませてから使用すること。[冷えたまま使用するとシリンジの動きが悪くなり(押し子の摺動抵抗が増加)、閉塞警報が多発する原因となる。]</li> </ul>  |
| 33  |   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化を生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]</li> </ul>  |   | <p><b>【使用上の注意】〈重要な基本的注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないこと。[本製品内部での結露発生により、損傷や劣化を生じ、本製品が有する機能や性能が得られない可能性がある。]</li> </ul>   |

| No. | 製品 A  | 製品 B  | 製品 C   | 製品 D  |
|-----|---|---|--|---|
| 34  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■本品と患者接続部との高低差はできる限りなくすこと。</li> </ul>   |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■本機は、患者の心臓の高さに対して上下65cm 以内の範囲で使用すること。</li> </ul> |   |
| 35  |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■シリンジ装着後は、輸液ラインを引く、押し込むなどの力を加えないこと。[これらの力が加わると、シリンジの外筒が所定の位置からずれ、一時的に薬液が注入又は吸引される可能性がある。]</li> </ul>    |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■シリンジ装着後は、注入回路を引く、押し込むなどの力を加えないこと。[これらの力が加わると、シリンジの外筒が所定の位置からずれ、一時的に薬液が注入又は吸引される可能性がある。]</li> </ul> |
| 36  |   | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■輸液を開始する際は、積算量を確認し、適宜積算量をクリアして使用すること。[本品は、早送り量を積算量に加算する仕様であるため、プライミング量を考慮しないと実送液量との差異が発生する。]</li> </ul> |  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■注入を開始する際は、積算量を確認し、適宜積算量を消去して使用すること。記憶機能を設定している場合は、特に注意を要する。</li> </ul>                             |
| 37  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■本品のシリンジランプ及びプランジャホルダを持って本品を持ち上げたり、強い負荷を与えないこと。[シリンジランプや注入機構部の破損の原因になる。]</li> </ul>   |   |  |   |
| 38  | <p><b>【操作方法又は使用方法等】〈操作方法に関連する使用上の注意〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■本品を縦方向に立てた状態(シリンジ装着時にシリンジが立っている状態)で使しないこと。[本品のプランジャホルダにシリンジのプランジャ（押し子）がしっかり密着していないとシリンジサイズ表示ランプが点滅し続け、注入を開始できない。又、開始できても注入中にシリンジ外れ警報が発生する可能性がある。]</li> </ul> |   |  |   |